



外国人相談員



佐藤 はるみさん
(ブラジル)

村上 アリセさん
(ブラジル)

千葉 真理杏さん
(フィリピン)

- ①祖父の影響で日本への興味が強く、日本で働きたいと思っていたから。
- ②ブラジルの日系人の集まりで学んだ。来日後は、にほんごひろばに通った。
- ③外国人向けの介護学校で通訳を経験し、コミュニケーションの楽しさを知ったから。

- ①移民法が改正され、日系人のビザが簡単に取得できるようになったから。
- ②幼い頃、家での会話はすべて日本語だった。そのため、読み書きが苦手です。
- ③外国人ボランティアの方から、役場の通訳の仕事を紹介してもらったから。

- ①日本で家族ができたから。
- ②子ども向けの歌番組で流れていた歌や歌詞が載っている本から日本語を覚えた。
- ③今まで多くの方に助けてもらった経験から、恩返しもかねて、自分も人の役に立ちたいと思ったから。

Q 3つのきっかけ

①なぜ日本に? ②どうやって日本語を? ③なぜ外国人相談員に?

おかれた環境で生活するために、たえず勉強をしてきた。笑顔で経緯を話してくれるが、日本語でうまく会話できないもどかしさや大

から覚えるのが早いと教えてくれた。それぞれ

ある。3名とも来日して約30年。最初から日本語での会話や読み書きができたわけではない。

日本語をどのように習得したか聞くと、「歌」

町に住む外国人は1542人(5月末日時点)。役場などで行う日本語での手続きに、不安を抱えている方も



同じ地域の住民として付き合えるようになることが大切。まずは、子どもの頃から見た目や国籍に関係なく関わりあえる地域になれたら」と話してくれた。

また、今でも「外国人は怖い」というイメージを抱く子どもや大人に出会うこともあるという。「外国人として意識されるのではなく、

員意気投合した。

来庁者・保護者の悩みや不安を解決できたときは、とてもうれしい」と仕事のやりがい

変さを経験してきた。その経験が、外国人相談員の仕事につながっているようだ。「外国人相談員をしていると、お客さんが求めていることに応えきれず、つらいことも多い。しかし、